

資料[1]

あとを絶たないごみ投棄の実態を調べるため、富士山クラブは「富士山環境ごみマップ」を作成中だ。2005年度は静岡県富士宮市を調査エリアとし、4～12月の15日間にボランティアが現場に出た。発見したごみは携帯電話で撮影し、種類や量をメールで管理コンピューターに送信してまとめた。調査エリアは、国道139号と469号の内側から、富士山の標高1,500m(富士山スカイライン)近くまでに限定。

[2]

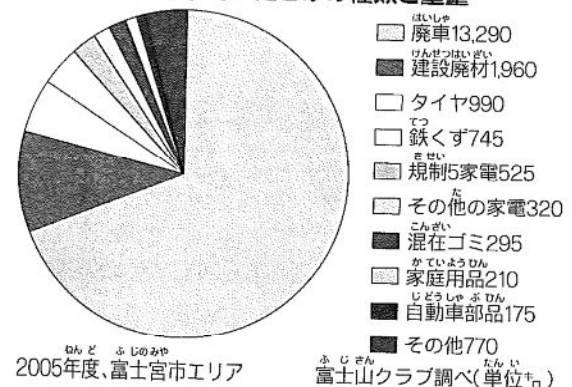
多くの地点で捨てられていたごみ

1	タイヤ	36地点
2	建設廃材	28地点
3	鉄くず	24地点
4	規制5家電以外の家電	18地点
4	混在ごみ	18地点

・規制5家電……家電リサイクル法で、使える部分のリサイクルを定められている、エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、洗濯機の5種類。

[3]

捨てられていたごみの種類と重量



[4]

「マナスル・富士山同時清掃登山」で、女優の若村麻由美さんを隊長とする富士山清掃隊が5月3日、朝霧高原でごみを拾い集めた。

そこは4年前にも清掃した場所。だが、4年間にたまったごみは当時集めた量をはるかに超えていた。副隊長の舟津宏昭さん(32)は「ごみがごみを呼ぶ悪循環。見える所にゴミがあると、次々と捨てられてしまう」と嘆く。放置された廃ワゴン車には、ペットボトルや弁当ごみ、トラックのタイヤまで押し込まれていた。

翌日は、青木ヶ原樹海周辺(山梨県富士河口湖町)を清掃。閉会式で、野口さんと若村さんが衛星テレビ電話で成果を報告し合った。

[5] マナスルのごみは岩陰に

マナスルで野口さん一行は、雪崩の恐怖とたたかいながら、雪を掘ってごみを回収する作業と格闘。1カ月間で220kgを集めた。

旧ベースキャンプ跡地で、岩陰や岩の下から大量のごみを発見。ハングルや日本語が書かれた“アジア系”が多数だった。ごみ捨てに罪悪感をもち、見つかりにくい場所に隠していったようだ。

野口さんによれば、1980年代半ばまで、登山隊はルートに堂々とごみを捨てていった。その後、環境保護がさげられるようになり、90年代に捨てられたと思われるごみは、ルートからはずれた場所で発見されている。

90年代後半のごみは、岩陰やクレバスから見つかることが多い。最近では、ごみを持ち帰ることが常識となった。

[6]

トイレから富士の山はだに垂れ流された、し尿(大小便)やトイレトーパーが、一時大問題になった。解決法の一つがバイオトイレだ。「おがくず式」は、微生物を付着させたおがくずを便器の下にしくタイプ。微生物がし尿を分解し、においも残らないすぐれものだ。